

山本健吉 文芸評論家。公正無私な視点から、現代文学を見直し古典文学を論じて、<敗戦>後の評論界をリードした。

やまもとけんきち

韓国反日暴動1907 = 長崎県生れ。文芸評論家弁護士石橋忍月の子。

明治天皇没・1912 = 5歳：

民本主義・・・1916 = 9歳：

原敬首相暗殺1921 = 14歳：

治安維持法・1925 = 18歳：

慶大国文科在学中、折口信夫の講義を聞き、大きな影響を受けた。

満州事変・・・1931 = 24歳：

卒業後、_改造社に入り、{俳句研究}の編集に携わる。

帝人疑獄事件1934 = 27歳：

日中戦争始・1937 = 30歳：

第二次大戦始1939 = 32歳：*吉田健一・西村孝次・中村光夫・伊藤信吉と、同人雑誌{批評}を創刊、公正無私な視点で私小説を論じ、

日米開戦・・・1941 = 34歳：

創価学会検挙1943 = 36歳：*処女評論「私小説作家論」を刊行した。

敗戦・・・1945 = 38歳：

三大事件・・・1949 = 42歳：「孤児なる芸術」，

独立回復・・・1951 = 44歳：

メテ-事件・1952 = 45歳：「現代俳句」，

テレビ放送始・1953 = 46歳：「現代文学風土記」，「第三の新人」

日本の古典文学に関するすぐれた評論をつづけて発表，

55年体制始・1955 = 48歳：*「古典と現代文学」で読売文学賞，「芭蕉」で新潮文学賞を受賞し、批評家としての地位を確立した。

国連加盟・・・1956 = 49歳：「俳句の世界」。

安保闘争・・・1960 = 53歳：

ついで病始・1961 = 54歳：

全国総合計画1962 = 55歳：「十二の肖像画」._「柿本人麻呂」で再び読売文学賞，

いざなぎ景気1966 = 59歳：_芸術院賞。

全共闘・・・1969 = 62歳：芸術院会員，

大阪万博・・・1970 = 63歳：

日中国交回復1972 = 65歳：_日本文芸家協会理事長，

石油ショック1973 = 66歳：

革新大敗北・1979 = 72歳：_「詩と自覚の歴史」で日本文学大賞。

・・・1981 = 74歳：_「日本美の'いのち'と'かたち'」で野間文芸賞。文化功労者となり，

中曽根内閣・1982 = 75歳：

テレビニラット・1983 = 76歳：編「現代俳句集成」._文化勲章を受章。

・・・1984 = 77歳：_日本文芸家協会会長となって

明治大教授もつとめた。

リクルート事件・1988 = 81歳：_没した。

「この人どんな人」，